eLAつうしん
eライブラリアドバンス
2024年10月号 Vol.243

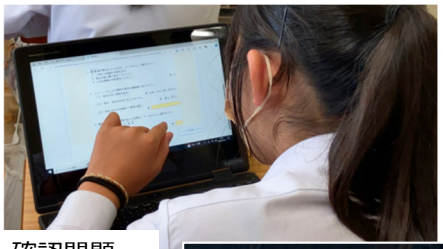
滋賀県草津市立 高穂（たかほ）中学校

学年、教科を越えて広がる活用

～ 多様化する学びに、eライブラリでできること ～

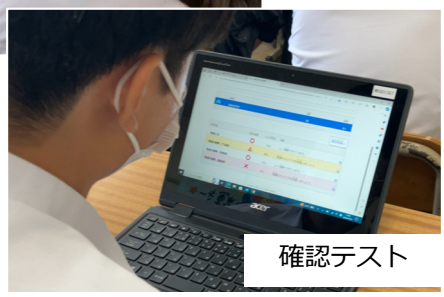
滋賀県内で最大規模の学校である高穂中学校では、人とのつながりや学び合いを大切にしています。eライブラリの利用を通じて問題対応力、情報リテラシーなども伸ばす、授業の様子を伺いました。

確認テストで言語事項の定着を確認　国語　谷先生



確認問題

◀ テスト開始まで、単元のポイントを念入りにチェック



確認テスト

その場で理解度の分析結果を確かめられる ▶

普段から、言語事項の定着にeライブラリを活用しているという谷先生。２年生の授業では、「敬語」の単元末テストを「確認テスト」で行いました。

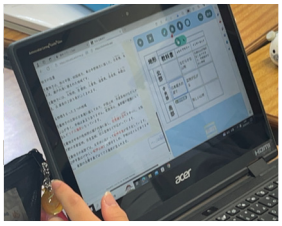
テスト前の１０分のおさらい時間で、生徒はｅライブラリか紙のワークを選び、各自復習をします。中にはドリルだけでなく、「解説教材」や「確認問題」に取り組む生徒も。

テストを終えると**生徒は自分の結果をその場で確認でき、**「もう一回やりたい！」と奮起します。そこで谷先生は、「次はテスト結果に応じた課題にトライしよう」と声を掛け、「自動個別課題」を使って一人ひとりに合った課題を出題されました。

谷先生からの声掛け

- 「何を聞かれているのか、問題文をよく読んでから考えましょう」
- 「問われ方が変わると分からなくなることがあります。繰り返し解いて定着させましょう」

課題への取組みを通じて情報リテラシーを鍛える　社会　西出先生



解説教材(左)、ワークシート(右) ▶

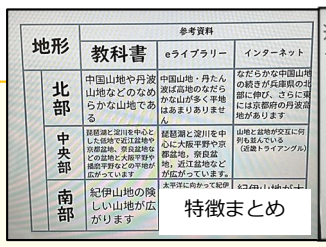
２年生の社会の授業では、学習課題「近畿地方の自然環境にはどのような特徴があるのだろう」について調べました。

班内で役割を分担し、教科書、ｅライブラリの「解説教材」、インターネットの三つから、自然環境の特徴を調べ、書かれている内容を協働学習ソフトでまとめます。

続く個人ワークでは、三つの内容を比較して気づいたことをまとめました。**「情報源による内容の違いに気づき、情報リテラシーを身に着けてほしい」**という西出先生のねらいでした。

西出先生のねらい

- 生徒に主体を置き、試行錯誤しながら調べることを通じて知識を再定義化する
- 情報源ごとに内容を比べ、違いがあることに気づく



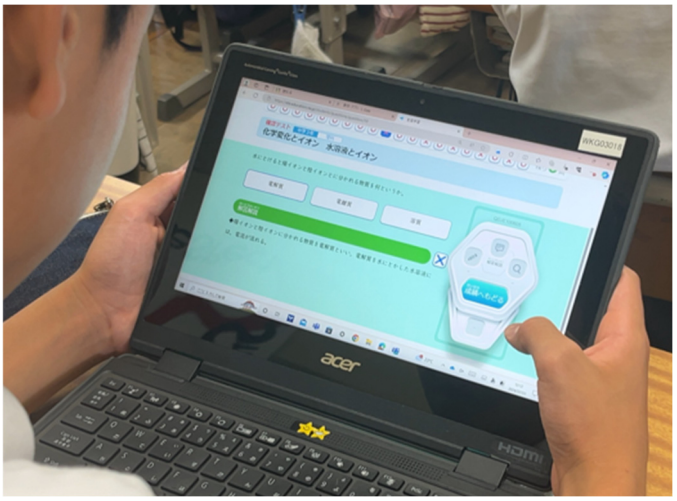
地形	参考資料		
	教科書	eライブラリー	インターネット
北部	中国山地や丹波山地などのなめらかな山地である	中国山地・丹たん波は高地のなだらかな山が多く平地はあまりありません	なだらかな中国山地の続きが兵庫県の北部に伸び、さらに東には京都府の丹波高地があります
中央部	琵琶湖と淀川を中心とした盆地で近江盆地や京都盆地、奈良盆地などの盆地と大阪平野や播磨平野などの平地が広がっています	琵琶湖と淀川を中心に大阪平野や京都盆地、奈良盆地、近江盆地などが広がっています。	山地と盆地が交互に何列も並んでいる（近畿トライアングル）
南部	紀伊山地の険しい山地が広がります	太平洋に向かって紀伊	紀伊山地が広

特徴まとめ

近畿地方は北部、中央部、南部で地形や気候が大きく異なる。北部はなだらかな山地が続き、季節風の影響で冬は雨や雪が多く降る。一方、南部はけわしい紀伊山地がそびえている。南からの黒潮の影響で、温暖で雨の多い地域。
教科書とeライブラリーは書いているが似ている。インタ
に書かれている。

三つの比較

一問を大事に、じっくり考える　教育情報化リーダー／理科　松本先生



▲ 一問ずつ解答解説を読み、疑問点はその場で解決

３年生の理科の授業では、「水溶液とイオン」の単元末テストを「確認テスト」で行いました。

テスト結果は即座に集計されます。先生はモニタリング画面から正答率を確認し、生徒の苦手の発見に役立てます。

「問題が一問ずつ表示され、画面に余白があるため、紙の問題集を利用していたときよりも、**書き込みをしながらじっくり考える生徒が多くなりました**」と松本先生。また、**生徒同士が教え合いながら解く姿を見ることも増えた**といいます。

教育情報化リーダーである松本先生に、ｅライブラリを先生方へ紹介するポイントをお聞きしました。

- **個別最適な学びを実現するための一つのツールになること**
- **家庭での自主学習、隙間時間に取り入れやすく、問題に繰り返し取り組んで定着率をあげられること**
- **実技教科を含む９教科の教材が収録されていること**
- **カード帳や単元別プリント、高校入試過去問も利用できること**

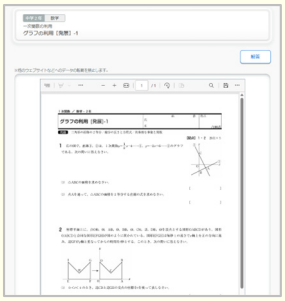
説明を受けた先生方の反応は・・・

「やってみよう！」
「これならできるかも」

校内に広がる、ｅライブラリの活用

「単元別プリント」数学　太田先生

・課題を終えた生徒から取り組めるよう、印刷しておく
・難易度が基本、標準、発展に分かれていて使いやすい
・特に「利用」の問題が豊富で、該当の単元で活用している



「ドリル(単元学習)」特別支援学級　釜淵先生

・学力に個人差があるが、小学校の内容も含め、自分に合った教材を選べる
・１００点を取れたという達成感を得られ、前向きに取り組む生徒が増えた

インタビュー　ｅライブラリのメリットを知ることから、活用が広がる

ｅライブラリには、教員と生徒共に、活用するメリットがあります。教員であれば、**「小テストなどの作成時間を減らせる」「生徒の理解度の把握がしやすい」**、生徒であれば**「自分のペースで、習熟度に合った学習ができる」「聞き方を変えてくる問題に繰り返し取り組み、問題対応力を伸ばせる」**など、利用する側にとってのメリットを伝えていくことで、ｅライブラリの活用は広がると考えています。

昨年度、夏休みの課題をワークからｅライブラリに変えました。**学びが多様化する今、「従来の方法で適していると言い切れるか」**と問い直し、**まずは試してみる**。するとデメリットも見えてきますので、運用を工夫、改善する。まずは、教員も生徒も触れる機会を増やすことが大切だと考えています。

校長
藤井 泰三 先生

LINES
学ぶチカラを、未来のチカラに

ラインズ株式会社
〒169-0051　東京都新宿区西早稲田2-20-15 高田馬場アクセス
TEL:0120-49-7130　FAX:03-6861-6006
https://support.education.ne.jp/ela/ela2020.html